

北園 NEWS

KITAZONO

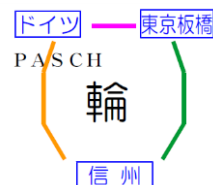
2017.4.12 (水) 34号

信州北園プロジェクトを知る

確かな学力とタフな人間力を目指して

プロジェクトをより理解するためのカギ

→「グローバル化の進む社会において、「他の人、他の世代、他の民族・宗教など」に目を向け、理解し、受け入れる姿勢を自らの内に養うことを目的として信州北園プロジェクトは平成 22 年（2010 年）度から始まりました。自国中心主義の台頭とその是非が問われる現在、広い視野から社会を見る姿勢を身につけましょう。



① 視野を広げる

1. 信州から日本を眺め、環境・エネルギー問題・高齢化社会など、日本の問題を多角的にとらえる。
2. ドイツなど、外国から日本や世界を眺め、グローバル化・地球環境問題・民族・宗教・国際平和など、世界の問題をとらえる。



② 確かな学力へ

本物の学問・研究を知る

1. 信州大学訪問 例え繊維学部で、現代のファイバー工学・最先端の研究現場を見る、体験する。
2. OBの講演会 学問・研究の素晴らしさにふれる
→自分も参加・まず毎日の学習習慣をつけよう
自学自習・自分から積極的に本物を学ぶ姿勢を身につけよう

なぜ信州北園プロジェクト？

ゆみ:ひろみ先輩！お久しぶりです！大学生活はどうですか？

ひろみ先輩:この春は、3年に進級したので、松本キャンパスから伊那キャンパスに引っ越しがあって、けっこう大変だったけど、やっと落ち着いたところよ。

ゆみ:そういえば、私たち2年は5月に先輩が住む伊那に行って森林保全奉仕活動をするんだけど……ええと、何で信州のプロジェクトは北園高校でしかできないの？

ひろみ先輩:板橋って、江戸と信州を結ぶ中山道の出入口だったのよ。ほら、北園は板橋宿の「どまんなか」にあるでしょ。中山道をまっすぐ行けば信州に着く。

ゆみ:そういえば、「仲宿」って昔の宿場町なんだ。小学校の時に習ったかも。……でも位置の問題だけじゃないわね。でも、どうして北園で信州のプロジェクトしなくちゃいけないの？ 第一、遠いし。荒川プロジェクトくらいじゃダメかな。花火大会や川の水浄化に貢献するとか。

ひろみ先輩:それがね、大事なことが一点あるの。今の都立高って、ほとんど皆、やる事が同じ方向に向かっていて、金太郎飴のようにどの学校を切っても同じ柄の模様なの。

ゆみ:そういえば中学生の時、高校の合同説明会に行ったんだけど、高校名を入れ換えてもどこでも同じみただったな。特徴や個性がない。

ひろみ先輩:そこでどうするか。北園にしかできない、北園だけが追えるものを追求していくと、今のプロジェクトでやっていることにたどり着くの。まあ、信州の場所は必ずしも Only

じゃないけど、一つ選ぶとしたら、甲州より、房州より、上州より…「シンシュウ」の音ってオシャレだし。

ゆみ:オシャレって、大事なのよね。

ひろみ先輩:あっ、第二職員室の出入り口から、山元先生が出ていらした。先生、もっと深味のある話はないのですか？

山元先生:すっかり春らしくなったわね……その一つのヒントとして、今日は歴史の面から見てみよう。北園は長野県との付き合いが伝統的に深いんだよ。昔は、長野県霧ヶ峰に造った「北園学園」寮で1年生クラス合宿や部活動の合宿を毎年していた（2009年使用停止）。学年全員で「北園学園」寮に宿泊して、地学や生物の調査の学習等を行って、それが青春の貴重な思い出になっているの。青春の記念碑を後輩たちも信州で共有してほしいとの考えから、同窓会の九曜会でも信州との付き合いは継続・発展させてほしいという願いがある。信州北園プロジェクトに熱い期待を寄せ、支援（プロジェクトの行事へのOB講師の派遣など）をいただいている。校友会の三五会の方は、北園の今後の中心に「信州北園プロジェクト」を据えたいとよく言っておられる。プロジェクトの各行事・進路指導への支援の他に、PASCH等の留学先からリアルタイムでレポートが送れる携帯の援助もいただいているんだ。

ゆみ:私たち生徒の温度はこれからね。熱くならなくちゃ。

山元先生:以上は「芽生え」の話だ。核心の、生徒にとって、教員にとってのプロジェクトの意義は、次号以降で。

まず1年生は、新入生セミナー

4月27日 28日

問題 新入生セミナーの目標として、次から適切でないものを2つ、符号で答えなさい。

- ア、自らの学習習慣を作る。 イ、信州の歴史と文化の観光巡り。
ウ、学問・研究のすばらしさに触れる。 エ、合宿して大学受験の問題をどんどん解く。
オ、自学自習をシミュレーションして特別学習をする。

解説

数年前から高校の先生方も大学入試問題の研究を教科毎に課せられるようになり、先生方の研修として受験指導も以前より前向きに取り上げられるようになりました。都立の進学校でも、大学入試合格実績の向上へ取り組むことが常識化している今日です。

さて、北園高校は旧4学区の中で特に他校に先駆けて、進路指導体制をしっかりと作り、進学実績は国公立大にしる、早慶上理・GMARCHにしる、他校と比較しても立派な実績を具体的な合格者の数で証明しています。先生方の態勢も、従来の都立高のような各先生の個人技で終わることなく、協力体制を取って生徒とチームで大学受験に向かうことが学校の方針になってきました。

その上で「入試問題をどんどん解く」ことについては——これには落とし穴があることに注意すべきです。難しい入試問題を解いているだけで「何となく」受験勉強をしている気分になってしまうのですが、そこに至るには正しい段階があることを知るべきです。高校2~3年生のある時期ある段階において、大学毎に異なる入試問題を研究することはぜひ必要です。でも、その前にもっと大事なことがあります。……たとえば河合塾や駿台などの浪人生が毎日通学して学ぶのが主体の予備校では、夏までは徹底的に「基礎を確かに」し直すこと（ほぼ教科書レベル・英数なら高校1~2年生ぐらい）を義務づけられます。

このことからわかるのは、大学受験のための第一歩は、高校1~2年生から学ぶことを確実にすること→高校1年生の皆さんの今すべきことは、学校で学ぶこの一年の事項を徹底的にやっておくことが、東大や他の国公立大にしる、早慶上理・GMARCHにしる、受かるための必要条件なのです。また特に「大学入試センター試験」という全国統一試験では、多くの科目で90%以上が高校1~2年で学ぶこと、又はそのレベルに基づいて出題されていることを頭に置いて日々の学習に力を入れおくべきです。

従って、高一の新入生セミナーで入試問題をどんどん解くという選択肢は、大いなる誤りとなります。「基礎」の学習のために、入学間もないセミナーでは、学習習慣や自学自習の実現に力を注ぎ、本来の学問研究のおもしろさに目を向けることを重視します。

注！ 中学生の時のように、3年生になってから3年間の事項を学校の後の数時間の学習で間に合わせてくれるような「進学塾」に当たるものは、大学受験においてはありません（時間的にも不可能）。——この高校受験と大学受験との違いを誤解しないで、しっかり頭に置いてください（大学受験における現役高校生向けの予備校や塾はあくまで補完的なものです。費用も一教科何万円と高価です）。現役高校生は、基礎は高校でやってきてください、というのが予備校の姿勢の基本でしょう。